

園だよりや保護者会資料に ＜掲載例＞

『なつやすみのはなたば』を保護者の皆さまにご案内いただく際の参考として、園だより等にご活用いただける掲載文例を2パターンご用意しました(宗教色あり／控えめ)。園のご方針や保護者の雰囲気にあわせて、必要に応じてご使用・ご編集ください。

「聖書に なじみがない」「聖書(宗教)を どう扱い、解釈してよいか分からない」
という不安も、園や家庭、先生とみんなでサポートしながら楽しみましょう😊

宗教色 あり

- 文例①「神さまの愛を受けとる、やさしい夏のひとときに」
今年の『なつやすみのはなたば』は、イエスさまの奇跡を通して、神さまの深い愛を子どもたちに伝えるワークブックです。制作や絵、シール貼りなどの活動を通して、子どもたちは自分なりに神さまのやさしさを感じとることができます。取り組み方に決まりはありません。正解もありません。ぜひ、気負わずに「たのしいね」とお子さまと笑い合いながら、心あたたまるひとときをお過ごしください。
- 文例②「奇跡のおはなしとともに、心を育む夏に」
五つのパンと二匹の魚、湖の上を歩かれたイエスさま。子どもたちは、聖書の物語に出てくる不思議でやさしい“しるし”を、遊びながら受けとっていきます。このワークブックは、その子その子のペースで楽しめるつくりになっています。うまくできるかどうかよりも、親子でふれあい、安心の中で過ごす時間そのものが、大切な信仰の種まきになります。
- 文例③「神さまと子どもをつなぐ、小さな手のひら」
『なつやすみのはなたば』は、1963年から続くキリスト教保育の夏の教材です。大人の手で導くよりも、子どもたちの自由な表現のなかに宿る神さまの“しるし”を、そっと見守ってあげingことを大切にしています。全ページに取り組む必要はありません。「やってみたい」と思えるページに楽しんで向き合うこと、その経験がやがて心の根っこにあたたく残ることを願っています。

宗教色 控えめ

- 文例①「子どもたちの“やってみたい”を応援する夏」
『なつやすみのはなたば』は、自由に楽しめる夏のワークブックです。ぬる、はる、かく、つくる—どれも子どもたちが自分のペースで取り組める内容になっています。「やらなくちゃ」ではなく、「やってみたい」と思える気持ちを大切に、無理なく進めていただければと思います。正解のないワークです。お子さまらしい表現を、あたたく見守ってあげてください。
- 文例②「親子の時間が、心の思い出になりますように」
このワークブックは、夏のおうち時間に、親子でふれあいながら取り組めるように作られています。「うまくできた」よりも「いっしょにできた」「たのしかった」—その小さな気持ちの積み重ねが、やがて大切な思い出になります。ほんの数分、1ページだけでも大丈夫です。お子さまのそばで、ひらくページの先にある“心の時間”を楽しんでみてください。
- 文例③「ことばにできない気持ちを、形にできるワークブック」
子どもたちの表現は、うまい・へただけでは測れない大切なもの。『なつやすみのはなたば』は、自由な表現のなかにある気持ちや世界を、受けとめることを目的としています。特別な準備は必要ありません。作品やお話を通じて、先生たちも夏の様子を感じられるのを楽しみにしています。どうぞ気負わず、ご家庭の時間の中でご活用ください。